

図 5.4.7 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるスズタケの被度クラス分布

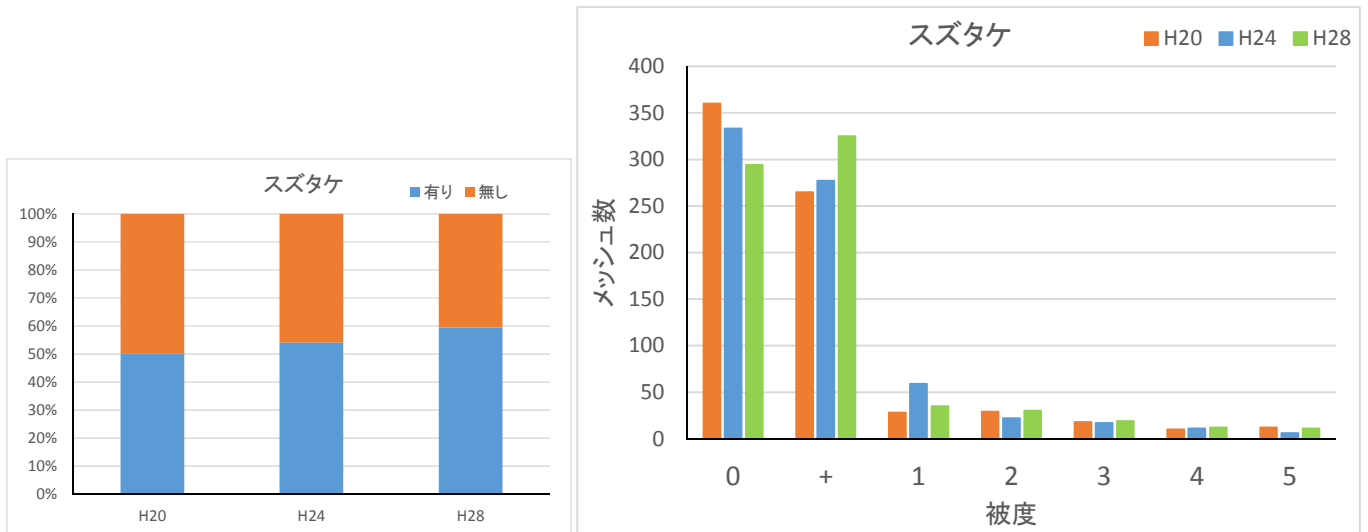


図 5.4.8 スズタケが確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化（防鹿柵外）

c. コケ類

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるコケ類の被度クラス分布を図 5.4.9 に、コケ類が確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化を図 5.4.10 に示した。

平成 20 年度からの防鹿柵外のコケ類の被度の主な変化を以下にまとめた。

- コケ類の確認メッシュ数にはほとんど変化が見られないが、平成 24 年度から 28 年度の期間で被度クラス 2, 3 のメッシュが大きく減少し、被度クラス+のメッシュが増加している。大台ヶ原全体でコケ類の被度の低下が進んでいるといえる。
- 林床のササ類の被度が増加すればコケ類の被度が低下するものと考えられるが、ササ類の被度が低い場所でもコケ類の被度が低下している。コケ類の被度が低下した原因として乾燥化や、下層植生が少ない斜面での表土の流出などが考えられるが現在のところ原因は不明である。